

# 韭 工 ニュース

県立韭崎工業高等学校  
第 110 号

総務部  
2013.12.09

## 保育体験実習

## 甘利山登山競歩大会実施

## ロボコン山梨上位入賞

### 保育体験実習開催

10月17日から29日まで、1年全クラスの家庭科授業で保育体験実習を実施しました。この実習は、私立愛生幼稚園児と直接触れ合う体験を通じ、子どもをいとおしく思う気持ちや生命の尊さを理解し、将来、親となる自覚を促すことを目的としています。すでに、同園卒園生も本校に入学して



いて地域に根付いた交流となっています。期間中、園児による演技の披露、ペアになってのお遊戯やゲーム、新聞紙を使った帽子作りや名札交換、生徒による紙芝居の発表、図書館での本の読み聞かせやレスリング場での交流をしました。また、急遽、システム工学科金田先生と生徒より「手作りパズル」の提供もありました。さらに、マスコミ取材（NHK、UTY、山梨日日新聞）も入り、その様子がテレビに放映され、新聞にも掲載されました。今年度も生徒

の園児への目線に合わせた優しい言動が多くみられ、異世代との関わりや進路選択のきっかけにもなった実習でした。

### 甘利山登山競歩大会実施

10月31日に第46回甘利山強歩大会が開催されました。男子30km(標高差 1153m)、女子21km(標高差 853m)、制限時間は7時間です。今年は472人(昨年450人)が出走することができました。過去最多出走数です。また完走率も全体で96.8%(昨年90.7%)で過去最高となりました。学校全体に活気がある証拠だと思います。その中でも、男子優勝の篠原正輝君(1-6)は序盤からハイペースで走り、2時間15分という昨年を上回る新記録で一年生ながら優勝しました。また



女子では三橋東奈さん(3-6)と地場彩花さん(2-5)が優勝しました。両膝と太股の激しい筋肉の痛みで、P27(ゴールまで3.5km)でリタイアとなった矢野優太君(1-3)は「今の自分には、ここ(P27)がゴール。来年は学校を目指したい。」とコメントしました。悔し涙で救護車に乗り込む姿が印象的でした。この経験は一生の財産になると思います。来年も甘利山がんばろう。

### ロボコン山梨上位入賞

#### 対戦型ペットボトル立て競技の部優勝

平成25年11月24日(日)アイメッセ山梨にて第21回ロボコン山梨2013が行われました。

本校も高校生の参加できる3部門(対戦型・ライントレース・球入れ)に合計18台がエントリーしました。対戦型ペットボトル立て競技には電子機械科、情報技術科、システム



工学科から6台参戦しました。今年はこの部門に30台がエントリーし激戦となりましたが、決勝リーグに4台(8台中)進出し、ベスト4には3台が進出して、最終的に優勝が1台と3位が2台という良い結果を得ることができました。

## 高校生ライトレース部門

ロボコンやまなし2013高校生の部「ソーラーカー競技」に本校電子機械科、電気科、システム工学科の生徒が製作したロボットが出場しました。4月から課題研究の授業や放課後等の時間を利用して製作してきました。電子機械科とシステム工学科の合同チームは「ソーラーカー競技」開始以来3連覇中で、4連覇のかかった大事な大会に3台のロボットを用意し出場しました。初出場の電気科チームも当日までに2台のロボットを完成させて出場となりました。



大会予選では1番目に出走した「葦工電気-1」が見事完走し、それに続く他のロボットも順調に走行しました。結果、最後に出走した「ラブにこぶん丸」が1分21秒の好成績で予選の1位を獲得しました。本校から出場した5台すべてのロボットが予選を通過することができました。

上位8台が出場できる決勝では予選の結果を踏まえロボットに少し改良を加え出走しました。しかし予選1位通過の「ラブにこぶん丸」は無事完走したものの甲府工業高校のロボットに3秒差で敗れてしまい2位となってしまいました。本校から出場したロボットの最終的な結果は2位、3位、4位、5位、7位となりました。上位を独占することはできましたが、優勝を逃してしまい非常に悔しい結果となりました。

## 自由参加の部 (対戦型球入れ競技)

制御工学科課題研究ロボット製作班及びロボット工学部員9名は夏休み以降「ロボコンやまなし」に出場するための球入れロボットを製作しました。しかし、就職・進学試験や学園祭の準備等に追われ、思うように進まず、構想は幾つもありましたが、現実の物にするには多くの困難がありました。お手玉を拾う部分はブルドーザー型、掻き込み型、先端部に針を付けたものなど多種にわたりました。問題は取り込んだお手玉を「1mの高さにあるカゴにいかに入れるか」です。多くの案が出され試しましたが、どれもあと一歩うまく行かず、結局2つの車輪を回し、その間に球を送り込み飛ばす方式にしました。初めは、数cmしか飛ばなかったのですが、ある工夫(企業秘密)をすることにより天井近くまで飛ばすことに成功しました。ただ、決まった位置に正確に飛ばすために、「試し」「改善」を何回も繰り返し、3分間に6~8個ぐらい入れられるロボットが完成しました。しかし、大会では独特な雰囲気の中でうまく操作出来ず、練習の成果が出せない人がほとんどでした。今回の大会では全体的に苦戦をしましたが、どうにか準優勝、アイデア賞をいただくことが出来ました。最後に思う



ことは、「ロボットを自分の思い通りに動くようにさせるのは難しい」、「アイデアを現実の物にするのは難しい」ということです。ぜひ、来年も多くの人達に挑戦してもらいたいと願っています。

URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail [info@nirasakith.kai.ed.jp](mailto:info@nirasakith.kai.ed.jp)